

第2回雄踏圏域協議体会議 グループワーク

①ゴミ出し支援について

- ・前回にも話したが、雄踏地区は集積所が多い印象（他地区と比べて）。
- ・地区内には居なくても、市内在住の親族が支援してくれている世帯もある。
- ・地元学校の連携事例も面白いが、事例は地域柄を考慮しての時期限定であり、浜松市における時期限定は難しいのではないかと。
また限定した時期以外のフォローはどうしていくか。
- ・ケアマネ等から寄せられる地区内のニーズは数こそ少ないが、実際にはある。
- ・ゴミ出し支援に対する補助制度が拡充されれば、ニーズに併せた少人数での取組みに繋がるのではないかと。
(※浜松市における安価なゴミ出し支援は地区社協の家事支援事業のみ補助制度あり)
- ・直近の家事支援事業について報告。
⇒8月、9月は20件弱対応。そのほとんどがゴミ出しの依頼。
利用者は固定されている。
- ・包括が把握しているケースで、ゴミ出しに困っているケースはあるか？
⇒最近はあまりないが、ゴミ出しに関する相談があると家事支援を紹介することがある。ケアマネも家事支援について把握しており、今では直接地区社協にゴミ出し支援の相談をすることもある。
また、ゴミ出しについて困っている高齢者でも、シルバーカーを使ってゴミ出しをする人もおり、自分で出来ることを増やすという観点でいうとプラスになっている。
- ・課題としては協力員の不足。町によっては協力員が1名のところもある。
普段の民生委員活動の中で、ゴミ出しに困っている人はいるか？
⇒いない
- ・地域で高齢者がゴミ出しに困っている実情がある中、浜松市では地区社協がゴミ出し支援をしている。しかし、家事支援事業を実施していない地区やそもそも地区社協がない地区もあり、地域でも格差が出ている。
- ・ゴミ有料化については、ゴミの量が増えなければ今のままとのこと。
- ・地区社協の家事支援活動の利用者は、包括やケアマネにつながってほしい希望はある。利用者に何かあったときに相談ができる人が欲しいと思う。
- ・中学生にゴミ出しに協力してもらうことについては、自転車通学の生徒もいるため頼みづらい。特にゴミ出し依頼の多い西山町は自転車通学が多いため難しいと思われる。
- ・生徒会の生徒と直接地域住民と話をする機会が設けられている。今後、地域が抱えるゴミ出し問題をテーマとすることもできる。
- ・ゴミ出し依頼は燃えるゴミや燃えないゴミの依頼がほとんど。その他のゴミ（ペットボトルや缶、資源ごみなど）はどのように捨てているのか。
- ・雑紙やエコキャップ、乾電池を近所の人に頼んで協働センターに持ってきてもらうことがある。
- ・新聞社やシルバー人材センターに新たにゴミ回収をメニューに加えてもらうのはどうか。

②防災等に関する取組みからのまちづくりについて

- ・助け合いの仕組みも大事だが、一番は自助であること。再度徹底していくことが共助に繋がっていくと思われる。
- ・今行っている防災訓練の強化も一つ。黄色いハンカチ運動も行っている・行っていない地区がある。共通理解としていくことも大事でないか。
- ・市役所から来る「災害時避難行動要支援者名簿」の取り扱いや保管などに負担感はある。「声掛け」という名称は負担感が少ない印象。
- ・寺子屋やカフェなどを通じて地域の子どもや高齢者に防災に関する情報を広めていく役目を地区社協で担っていく必要がある。
- ・地域の防災について過去に考えた際は、若い世代や女性がいなかった。今、改めて地域の防災を考える際にはそのような世代も合わせて話し合っていく。
- ・西山町としては、防災の仕組みやシステムができてはいるが発災の時に実際に運用できるかは不明。台風カフェもあるが、立ち上げ当初に比べて知られていない。人が変わっていく自治会の協力をどのように得ていくのが課題。どの活動でもどうしたら継続していけるか。
- ・中学生に防災に関する思いや案をもらうのはどうか。
- ・市の要援護者名簿を基に、自治会で月1度定例会を実施し、有事の対応について話し合いをしている。誰(自治会側)が誰(支援者)を担当するか決めているとのこと。
- ・カムチャツカ半島の津波についても、避難所に指定されているマンションに40名程避難された。要援護者名簿にある人についても、声掛けを実施し避難した。